

令和2年7月豪雨から3年 犠牲者を追悼し復興への決意新たに

フォトリポート



7月4日午前10時に市内に一齐に鳴らした追悼サイレンに合せて黙とうをする下青井町の皆さん



祭壇に花を手向け、犠牲者に祈りをささげる参列者。式典後は会場を開放し、市民の皆さんから献花の時間を設けた



1



2

▲追悼式（7月2日）、慰霊祭（7月4日）

▼くまもと復興映画祭球磨川特別編（6月24日）



作品に込めた思いや撮影時のエピソードを話す内村監督。観客からの質問に答え、会場を沸かせる場面も



熊本地出身の映画監督・行定勲さんがディレクターを務める「くまもと復興映画祭」の球磨川特別編が、昨年に引き続きカルチャーパレスで開催され、本市出身の内村光良さんが監督・脚本を手がけた映画『夏空ダンス』など5つの作品が上映されました。

同映画祭は熊本地震後の平成29年に始まり、映画の力で熊本を勇気付けてきたもの。オープニングで行定監督は「水害やコロナなど大変な中で、映画にできることは夢を与えたり楽しんでもらったりすること。ぜひ楽しんで元気になってほしい」とあいさつ。特別ゲストで登場した内村監督は「47分という短さだが人吉を思っ作った」と話し、上映後、再び登場すると会場は大きな拍手で包まれました。



3



4

写真1 追悼式で遺族代表の言葉を述べる倉岡伸至さん 写真2 令和2年7月豪雨犠牲者追悼式 写真3 下青井町内が開催した慰霊祭 写真4 くまもと復興映画祭球磨川特別編で上映された作品のポスターが並ぶ 写真5 映画祭では約350人の観客が内村監督のトークショーを楽しんだ



5